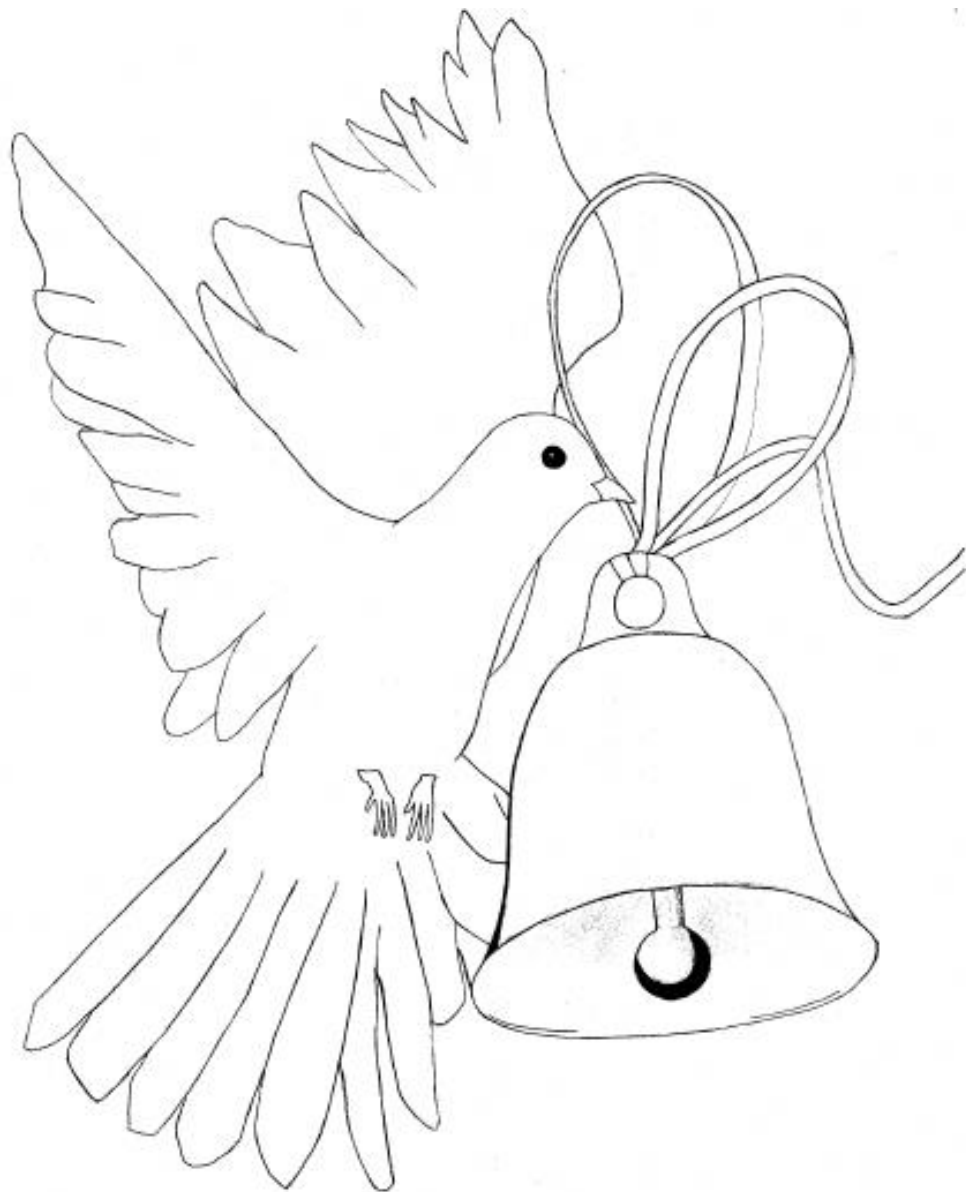


# 武蔵野市青少年平和交流派遣団 活動報告書

令和3年8月8日(日)～9日(月)



武 蔵 野 市



## 派遣にあたって



今年、武蔵野市は武蔵野市平和の日条例制定 10周年を迎えました。この節目の年に、あらためて若い世代が、戦争や被爆の実相を学び、平和の大切さについて考える機会となるよう、市内在住・在学の中学生・高校生に、青少年平和交流派遣団として公益財団法人長崎平和推進協会が主催する青少年ピースフォーラムに参加していただきました。

戦後 76 年が経過し、戦争を体験した世代が減少するなかで、団員たちの派遣団への応募動機からは、家族や親類からの話、学校での授業などで戦争について知り、平和のために自分にできること、すべきことを考えそれを広めていきたいという思いが伝わり、非核都市宣言のまち武蔵野市として頼もしく感じられました。

事前学習においては、市内在住の被爆者の方のお話を伺い、市内の戦争遺跡を巡るなど、原爆や武蔵野市内にあった中島飛行機武蔵製作所への空襲について学習しました。団員たちは、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えるなかで、戦争体験を直接聞ける最後の世代という自覚を持って、青少年ピースフォーラムに臨むことができたと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら長崎市への訪問は中止となりましたが、オンラインで実施された青少年ピースフォーラムでは、被爆者の方のお話や長崎の原爆遺構について学んだほか、全国から集まった青少年と平和について意見を交わしました。団員たちにとって、全国の同年代と課題を共有し、真剣に学んだことは、有意義な2日間だったことでしょう。今回学んだ経験は、ぜひ家族や友人など、周りの方に伝えていっていただければと思います。

市では、平成 23 年に武蔵野市平和の日条例を制定し、初空襲を受けた 11 月 24 日を「武蔵野市平和の日」と決めました。この日の意味を世代を超えて共有し、戦争も核もない世界を実現するため、国内外へ平和の尊さを発信してまいります。

令和3年 11 月  
武蔵野市長 松下 玲子

## も く じ

1 武蔵野市青少年平和交流派遣事業について……………	1
2 平和交流派遣事業の様子……………	5
3 事前学習の様子……………	9
4 平和交流派遣団に参加して……………	23
5 編集後記……………	38

表紙イラスト：佐藤 祐瑞

武蔵野市青少年

平和交流派遣事業について



## 武蔵野市青少年平和交流派遣団の概要

長崎に原子爆弾が落とされてから今年で76年が経過し、被爆の実体験者が少なくなる中、あらためて若い世代に、戦争の実相を学び、平和について考えてもらうため、市内に在住・在学の中学生・高校生11名に、青少年平和交流派遣団として青少年ピースフォーラム(主催 公益財団法人長崎平和推進協会)に参加してもらいました。またサポーターとして大学生2名にも参加していただきました。

派遣前の3回の事前学習で原爆や武蔵野市の空襲について学び、8月8日～9日は、平和祈念式典の中継視聴や、青少年ピースフォーラムで被爆体験講話や平和を考える学習会に参加しました。

今後、団員たちは派遣で学んだことを家族や友人たちに伝え、平和への想いを広めていきます。

### \* 青少年ピースフォーラム

全国の青少年と長崎の青少年とが、ともに被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深めます。同フォーラムでは、長崎市青少年ピースボランティアの高校生・大学生が平和学習の進行や被爆建造物の案内などを行っています。



## 青少年平和交流派遣団員名簿

### 派遣団員

氏名	学年	グループ
鈴木 心音	中学1年生	1
安永 琉偉	中学1年生	3
阿部 慶太	中学2年生	1
黒沼 歩夢	中学2年生	2
小島 わかな	中学2年生	3
坂本 彩香	中学2年生	2
佐藤 祐瑞	中学2年生	3
恒松 莉奈	中学2年生	1
小松 聡之	中学3年生	2
田中 愛唯	中学3年生	3
丸岡 奈那実	高校1年生	1

### 大学生サポーター

牛木 萌絵	市内在住大学生	
佐藤 礼菜	市内在住大学生	

## 青少年平和交流派遣団 スケジュール

		8月8日（日曜日）	8月9日（月曜日）	
10			10:00	111 会議室に集合
			10:30	平和祈念式典開式
11			11:45	平和祈念式典閉式 ミーティング
12			12:00	昼休み
13	13:00	111 会議室に集合 ミーティング後、各自の 会議室へ移動	13:00	各自の会議室に集合
			13:30	青少年ピースフォーラム開始 平和学習
			13:50	意見交換
14	14:00	青少年ピースフォーラム 開始 開会行事		
15	15:30	平和学習	15:20	閉会行事
			15:30	青少年ピースフォーラム終了 休憩
			15:45	111 会議室に集合 ミーティング
16	16:30	青少年ピースフォーラム 終了 休憩	16:00	解散
17	17:00	交流会参加		
18	18:00	交流会終了 111 会議室へ移動 ミーティング		
	18:30	解散		

\* 緊急事態宣言の発出により、長崎市への派遣は中止となりました。





## 平和交流派遣事業の様子



## 青少年ピースフォーラムオンライン参加等の様子

文：佐藤礼菜

1日目 8月8日(日)

主な活動

- ・青少年ピースフォーラム1日目
- ・平和学習
- ・交流会

### ・青少年ピースフォーラム(平和学習)

長崎にて当時原爆を経験した被爆された方の話や、資料館のオンライン見学をピースボランティア(ピーボ)の方々が実施してくださいました。お話しいただいた方は、当時とても被爆地から近い距離で被爆された方であり、改めて原爆の恐ろしさを感じました。

資料館のオンライン見学は、コロナ禍で長崎に行くことが出来なくなってしまったため、少しでも戦争や原爆の事について知ってもらいたいとピーボの方が案内をしてくださいました。



長崎の学生で構成されたピーボの方々が中心となって、様々な地域や県からオンラインで集まった参加者とピースフォーラムを行いました。

### ・交流会

参加された他の地域や県の方々の自身の町の紹介スライドを参加者全員で見て、ピーボの方々による長崎クイズなどを行いました。他県や他の地域の平和活動の取り組み方や、平和に対する考え方などを学ぶ事が出来ました。クイズの間では、ピーボの方による長崎の有名人当てクイズなどを行い、全員で盛り上がる事が出来ました。

2日目 8月9日(月・祝)

主な活動

- ・平和祈念式典
- ・青少年ピースフォーラム2日目

・平和祈念式典(オンライン)

今回は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下のため長崎に行くことが出来なかったため、YouTube を使用したオンラインでの参加となりました。オンライン越しであっても、厳粛な雰囲気がありました。唯一の被爆国である日本。そこでは、様々な人が「平和」という事について考えているように感じました。

11 時2分、鐘が鳴ると一瞬にして静まり返り1分間黙とうを行いました。その上で、改めて二度とあのような事は起きてはいけないと感じることが出来ました。



・青少年ピースフォーラム2日目

1日目とは違って、2日目はグループワークを主に行いました。住んでいる地域や県も全く違うメンバーと、戦争とは？ 平和とは？ ということについて話し合いました。更に、これから次世代に戦争の悲惨さをどのように伝えるかなどといった話もしました。自分が思っていた平和に対する考え方とは違う意見も出て様々な視点で平和について考える事が出来ました。



青少年平和交流派遣団員が着用したポロシャツにプリントされたデザイン

イラスト：田中 愛唯





## 事前学習の様子



## 事前学習について

文：牛木萌絵

結団式

6月11日(金)

最後の方に集合場所についた私は、自分が椅子に座って顔を上げた時初めて今回の参加者について知りました。中学生が主に多く、小さい頃から平和や戦争、核の悲惨さについて興味や関心を持っている事にとっても感激し、感心しました。

結団式では団員の自己紹介、資料の配布、参加表明などを行いました。団員全員しっかりと参加した理由などを自分で話していて、とても驚きました。本当に興味があるのだなという事がとても伝わってきました。自分も中高生の子達に負けないくらい頑張ろうという気持ちが湧いてきました。



## 第1回学習会

6月18日(金)

一回目に行われた学習会では、「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の牛田守彦先生が来てくださいました。まず初めに長崎の原爆について学ぶのではなく、最初は武蔵野市の戦争の歴史について学びました。

私たちの町である武蔵野市もとても悲惨な戦争の被害があったという事を学びました。現在の都立武蔵野中央公園があるところに戦時中存在していた、中島飛行場という軍需工場では戦争で使用された多くのエンジンを作っていました。米軍によるその工場を狙った爆撃によって、多くの方の命が亡くなりました。更にここでは広島、長崎に落とされた原爆の模擬爆弾も落とされました。

今まで知らない事が多く、武蔵野市にもこれ程の恐ろしい戦争の被害があったことにみな驚いていました。

次に、藤本竹次さんのお話を聞きました。小さい頃に、長崎にて被爆をされたというお話でした。実際に、原爆を体験された方のお話は滅多に聞くことが出来ないものでとても貴重なお話でした。





## 第2回学習会

7月25日(日)

第2回学習会では、「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の牛田先生の案内のもと、武蔵野市の戦争の歴史について学びました。

武蔵野総合体育館、都立武蔵野中央公園・はらっぱむさしの、源正寺、延命寺、武蔵野ふるさと歴史館、井の頭自然文化園という順路で回りました。

武蔵野総合体育館では、2階からグラウンドを見ながらお話をうかがいました。かつてここに防空壕があったことを知りました。

都立武蔵野中央公園・はらっぱむさしのは日本有数の軍需工場、中島飛行機武蔵製作所の跡地です。公園内には解説板があり、かつてここで空襲があったこと、今の平和が悲惨な歴史の上にあるということをまさに実感できました。

源正寺では空襲によって欠けた墓石を見ました。

延命寺では住職の方からお話をうかがいました。平和観音菩薩像の前で、250キログラム爆弾の破片を見ながら空襲の話を聞きました。

武蔵野ふるさと歴史館では、小学生のときに空襲を体験された島津さんのお話を聞きました。先ほどの延命寺でのお話とつながるところがあり、戦争は多くの人の心に傷を残してしまうのだと感じました。

最後は井の頭自然文化園に行き、北村西望の作品である平和像とアトリエを見学しました。学芸員から解説を聞きながら、北村西望がどのように平和像を作ったのか、想像を巡らせました。





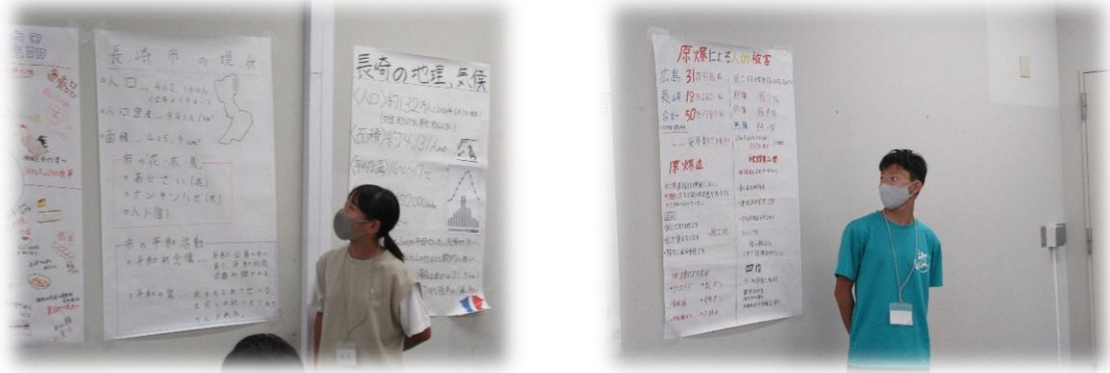
### 第3回学習会

8月2日(月)

グループごとに「長崎の自然・歴史・文化を調べてみよう」「原爆の被害について調べてみよう」「世界の核兵器と廃絶の取り組みについて調べてみよう」の三テーマに分かれました。その中から、一人一つ小テーマが与えられ、それぞれ自分で調べて発表しました。

大学生サポーターは調査・発表はありませんでしたが、中高生の団員が調べて模造紙にまとめている姿を見て、熱意が伝わってきました。発表は、しっかり調べられていて説明も工夫されており、すごいと思いました。

中高生の団員は、調べ学習はもちろん、他の人の発表を聞くことで学びになったのではないかと思います。ここで学んだことが、青少年ピースフォーラムでの意見交換に活かされたのではないのでしょうか。



# 第3回学習会 発表資料

## グループ1 テーマ「長崎の自然・歴史・文化を調べてみよう」

### 長崎の海外交易の歴史

#### 主要な交易の場所

- ・長崎港
- ・佐世保港
- ・福江港
- ・郷ノ浦港
- ・厳原港
- ・長崎空港

#### 主な交易の歴史

年号	時代	出来事
1191	鎌倉	宋西が南宋から帰着する。
1550	室町	ポルトガル船が来航する。
1571	戦国	長崎港を開港する。
1636	江戸	出島が完成する。
1689	・	唐人屋敷が完成する。
1854	・	日英和親条約が長崎で調印される。
1945	昭和	原爆が投下される。
2021	令和	長崎港の開港450周年を迎える。

輸出入品目の未だ変わり

1867年

輸出 NO.1 茶

輸入 NO.1 船隻船

2021年

船隻船類

鉱物性天然物

- ・石炭
- ・石油製品
- ・原油油

#### 国ごとの歴史

##### 中国

日華連絡船が長崎と上海を26時間かけて定期運行していた。チャンポン、皿うどん、角煮などの食文化も持ち込まれる。

##### ポルトガル

パンや天ぷら、カステラなどが持ち込まれる。食文化以外にも合羽が持ち込まれる。また、キリスト教も布教した。

##### オランダ

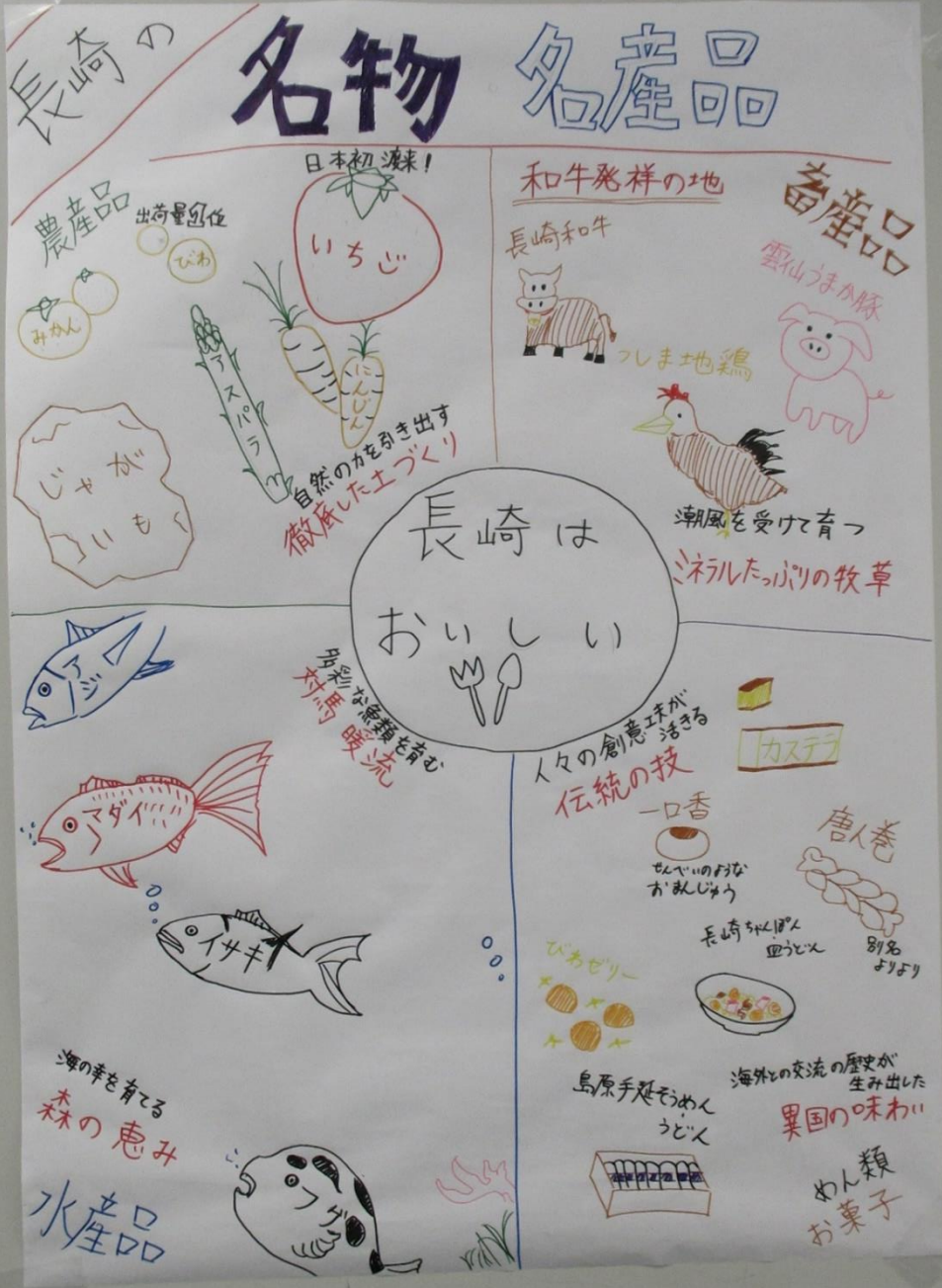
ペンキが持ち込まれ、塗装の技術が持ち込まれる。他にも、蘭学が持ち込まれ、西洋医学を伝えた。

##### イギリス

ビールが持ち込まれる。また、日英同盟は長崎で結ばれた。

#### 参考文献

<https://www.customs.go.jp/nagasaki/toukei/tokushuu.htm> 「長崎税関」  
<https://kotobank.jp/word/長崎貿易>  
<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/長崎貿易>





# 長崎の地理、気候

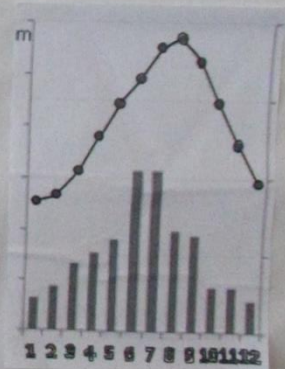
〈人口〉約132万人(2020年6月1日現在)  
(女性:約69万人,男性:約62万人)

〈面積〉約4,131km<sup>2</sup>



〈平均気温〉16℃~17℃

〈年間降水量〉約2000mm



~長崎県の特徴~

- 本土、離島とも山がちな平坦地に乏しく急傾地も多い。  
長崎県全体的にも山は比較的到低い。
- 河川も全般に短い。(最長は佐川の21.5km)
- 男性も女性も60代~70代後半が1番多い。

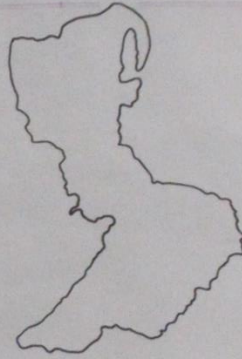


# 長崎市の現状

○人口 ... 402,100人  
<去年より少ない>

○人口密度 ... 991人/km<sup>2</sup>

○面積 ... 405.9 km<sup>2</sup>



## 市の「花・木・鳥」

- あじさい (花)
- ナンキンハゼ (木)
- 人ト (鳥)

## 市の平和活動

○平和祈念像 ... 平和公園の中にあり、平和祈念式典が開かれる。

○平和の泉 ... 水をもとめて亡くなる、夫方への祈りをこめてつくられた。



# 原爆による人的被害

広島 31万9186名

長崎 18万2601名

合計 50万1787名

※ 2019年8月時点

毎年数々が増加

## 原爆症

被爆直後は健康に見えた人  
被爆者二世などの人の容態が悪化する。  
死亡ケースも少なくない。

### 症状

- 体にだるさを感じる
- 目が見えなくなる
- 節々に痛みを感じる
- 死亡者

### 被爆による症状

- クロイト
- 乳がん
- 白血病
- 肺癌
- 甲状腺がん
- 小豆頭症

死亡する確率(1km以内, 70トマン)

熱傷 96.7%

外傷 96.9%

無傷 94.1%

2kmを100%とした時  
88.7% 死亡 (2週間)

## 被爆者二世

被爆者の子供が呼ばれる。

- 重い出生時障害
- 遺伝子の突然変異
- がんの発症率が上がる

有名人では

福山雅治さん

三世で綾瀬はるかさんなど

## 回復

3~4ヶ月後に始まる

器官の回復

脱毛からの発生

各種血球の増殖正常化

# 原子爆弾が もたらす物的被害

## 特徴

爆風と火災によるすさまじい破壊が  
瞬間的に生じた。

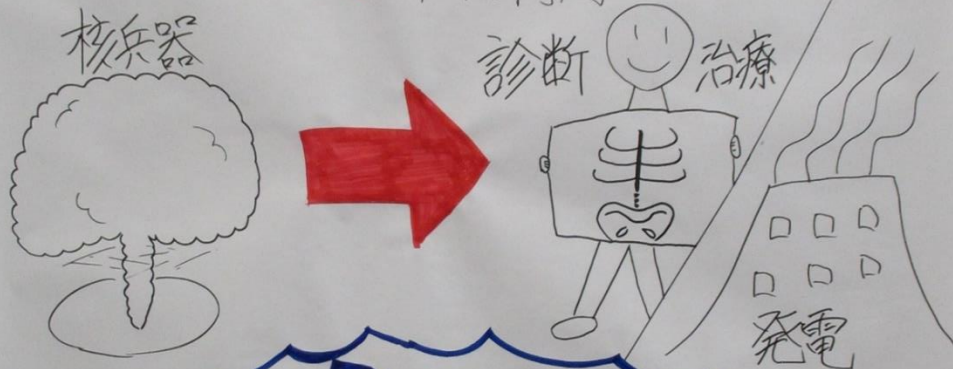
建物が破壊されるとともに火災が発生した。  
一発の原子爆弾で一面原子野  
と化した長崎の街。

原爆により市内にあった  
およそ4割の建物が全半壊  
・全焼したと言われている。

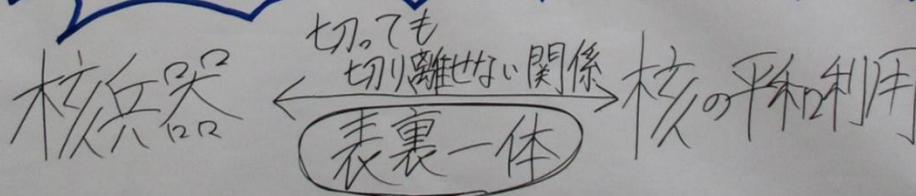


# 核の平和利用

～軍事開発 → 平和利用～



## But



核そのものの廃絶

↓ つまり

核の平和利用の廃止を求める声もある。



# 日本の核兵器廃絶への取り組み

## 1. 原水爆禁止運動

- 原水爆の製造・実験・使用の禁止と廃棄を求めた平和運動。
- ・1954年3月1日 | テキサス州パネムンクにて原水爆実験
- 署名運動
- 1955年8月 | 第1回原水爆禁止世界大会



## 2. 日本政府の取り組み

- ・1967年 | 非核三原則を宣言
- 1994年 | 国連総会が「核兵器廃絶条約」を採択
- 2017年 | 国連で採択
- 2021年 | 核兵器禁止条約採択の会議には不参加

## 3. 被爆地の取り組み

- 被爆地となった広島と長崎は、核兵器がもたらす被爆の実相を伝え、核兵器廃絶のために様々な取り組みを行っている。
- 原爆犠牲者への慰霊と核兵器廃絶を世界へ発信：広島長崎平和祈念式典
- 毎年投下された日に原爆死没者の霊を慰め、世界へ平和を祈念するための式典を実施。
- 原爆の実相を世界へ発信：広島平和祈念資料館、長崎原爆資料館 etc...
- 核兵器の開発への抗議
- 核兵器の開発に反対する核実験に反対するため、その実施国に対し抗議。
- 広島は1968年以降613回、長崎は1970年以降527回抗議を行っている。
- 世界へのアピールと連帯
- 平和首長会議：現在165ヶ国8031都市が加盟
- 核兵器廃絶地球市民集合+がサキ：NGOの発足の中心実施
- 高校生平和大使、高校生1万人署名活動



## 4. その他

### ● 非核都市宣言

- 地域住民の生命や生活の安全を守るため、地方自治体が地域内での核施設の建設や持ち込みあるいは核実験を行わせまいという宣言。
- ・1958年 | 愛知県半田市が「世界で最初の非核自治体宣言」を行う
- 1980年 | 英国のマンチェスター市議会が非核自治体宣言を出したのをきっかけに世界へ広がる
- 1982年 | 武蔵野市でも宣言を採択
- 現在、日本国内では342自治体が宣言を行っている。

### <参考文献>

- 長崎市「原爆を知り、平和を作るためのページ」、<https://nagasakipeace.jp/>
- 広島県「知ってほしい、核兵器廃絶・平和構築への取り組み」、<https://hiroshimaforpeace.com/effort/>
- 高校生1万人署名実行委員会「高校生平和大使 高校生1万人署名活動」、<https://peacefulworld10000.com/heimataishi/>
- 武蔵野市「平和施策について」、[https://www.city.musashino.lg.jp/karashi\\_guide/shimobataido/heiwa/](https://www.city.musashino.lg.jp/karashi_guide/shimobataido/heiwa/)

# 世界の核兵器の保有数

	2020年	2021年	その他	西配備
アメリカ	5800	5550	3750	1800
ロシア	6375	6255	4630	1625
中国	320	350	350	
イギリス	215	225	105	120
フランス	290	290	10	280
インド	150	156	156	
パキスタン	160	165	165	
イスラエル	90	90	90	
北朝鮮	30-40	40-50	40-50	
合計	13400	13080	9255	3825

世界の核兵器数は1年前に比べ  
1万3400発から1万3080発に減った  
ものの、西配備されている数は3720発  
から3825発に増えました。

出典: スウェーデン・ストックホルム  
国際平和研究所



アメリカとロシアは古くなった核兵器を解体する一方で、西配備する核兵器数を1年前に  
比べ約50発ずつ増やしたと見られます。  
アメリカとロシアの核兵器の数が減っているように見えますが、中身を見てみると主に古くなった  
核兵器を解体しているだけで、それと比べると軍用核弾頭の減少傾向が停滞しているように  
感じます。





## 青少年平和交流派遣団に 参加して



中学1年 鈴木 心音

私が、この青少年平和交流派遣団に応募した理由は、ひいおばあちゃんが亡くなったことがきっかけです。ひいおばあちゃんは、私の家族で唯一戦争を体験していました。よくお家には遊びに行きましたが戦争の話はする事が出来ませんでした。小学5年生の社会の授業で勉強しましたが、少し内容にふれる程度でした。

そんな時に青少年平和交流派遣団を見つけました。あまり知識が無いまま参加した私でも今では被爆のかくさは分かります。実際に被爆を体験された方の話を聞いたり、調べて勉強、他の人との意見交換を重ね、知識も段々と身につく中で思いました。「今はすごく幸せな時代だ」あたりまえのようにすごしていた毎日が少し勉強しただけで感じ方が180° 変わるとは思いませんでした。

この平和な時代に生まれて、日本に生まれて良かったと心から感じました。そして今回学んだ事や被爆の事は絶対に忘れずに、次の世代にも引きついでいきたいです。



中学1年 安永 琉偉

まず、今回の青少年平和交流派遣団ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの参加となりましたが、青少年ピースフォーラムの人と仲良くなり、一緒にゲームで遊んだり、意見交換をしたり、笑ったりして楽しかったです。

もちろんまだ青少年平和交流派遣団の役割はまだ終わっていませんが、みんなと一緒に乗り越えればきっと喜びが待っていると思います。





私は今回の青少年平和交流派遣団に参加し、今までよりも深く核や戦争と向き合う事ができました。実際に被爆された方や戦時中生きてきた方々の話を市区町村の人たちと聞き合う事ができました。

私が住んでいるここ、武蔵野市も被爆した場所の1つであった事は知らなかったのととてもおどろきました。新型コロナウイルスが無かったら皆で長崎に行けたと思うと非常に残念に思いますが、武蔵野市内の戦争跡地を見て回るという貴重な経験をさせていただき、より自分の住んでいる場所なので、戦争の恐ろしさが伝わってきました。この派遣団に参加する事ができてとても嬉しく思います。

これからはもっと、戦争について実際に体験していない人が増えてくるので、自分で見聞きした物事を我々の世代が受け継いで伝えていきたいなと思いました。



僕はこの平和交流を通して、これから自分は平和のために何ができるのか、何をしなければいけないのかということ考えることができた。なのでとても良い経験になったと思う。

僕が一番印象に残ったことは、調布市の活動だ。調布市では平和に関係する日にアナウンスをしている。積極的に平和へつながる活動をしている。これは武蔵野市だけではなく、日本全国でやるべきだと思った。

僕は平和につながることをやりたいと思う。しかし残念なことに、このようなことを自分からやりたいと思う人が少ないと思う。僕の友達には興味、関心がまったくない人がいる。このような人は年々増加している。だから学んだことをもっと人に広めなくてはならないと思う。しかしそれは昔から行われていた。だが戦争、核はなくなる。こんなバカげた争いで亡くなる人もいる。そんなことはもう終わりにしなければならない。もっと大きな平和活動が必要だ。もっと多くの人、多くの国が活動することが必要だ。その国々が活動しないなら、僕達が活動しないといけない雰囲気を作らなくてはならない。小さな活動だけで満足してはいけないと思う。これからもこのような活動に参加し、恒久平和を実現させたい。今アフガニスタンなどで起きていることなどを他人事とは思わずに一人ひとりが関心を持てるようにしたいと思う。このような活動から、平和へつなげていければ良いと思う。



私は、今回の青少年平和交流派遣団での活動を通して、近くにある戦跡に気づかされるとともに、自分が戦争体験を直接聞ける本当に最後の世代なのだ強く感じた。

事前学習では、近くにある「戦争の爪痕」について学んだ。いつも遊んでいた都立武蔵野中央公園一帯が、かつてゼロ戦のエンジンなどを製造する軍需工場である中島飛行機武蔵製作所だったこと、そのために米軍の攻撃目標となり空襲を受け、たくさんの方々が亡くなったことなどを初めて知った。その他にも爆撃によって傷ついたお墓などを見て自分の身近に戦争の爪痕が残され、身近な事から戦争について学べる事を知った。

ピースフォーラムでは、初めて被爆体験者の方から直接お話をうかがうことができた。一瞬で家族や友達がなくなることを想像すると、その恐怖をリアルに感じた。被爆体験談をもとに全国からの参加者と意見交換をする中で、バトンを渡された私たちが各地で、戦争の悲惨さと平和の尊さを広めていく事が重要であると共有した。

今年はコロナによる影響で長崎に直接訪れることがかなわなかったけれど、その分、自分の身近にある戦跡について知ることができ、「戦争」と「平和」についてより深く考えるきっかけとなった。また、被爆者の平均年齢が約 84 歳を迎える今、自分が戦争体験を直接聞ける最後の世代として、戦争を風化させることのないように、自分たちの世代や次世代への架け橋となるように、学んだ事を積極的に発信していきたい。そして、いつか長崎を訪問し、今回学んだ事を現地でさらに深めていきたい。





私は青少年平和交流派遣団で学んだことは三つあります。

一つ目は同じグループになった人との関わり方です。

他校の人と話すのはとても緊張しましたが、執拗に話しかけず、必要なことだけ話すようにしてみました。すると、その人との関わり方がなんとなくわかったような気がしました。

二つ目は平和とは何かということです。

私は今回平和とは人によって異なるということを改めて感じました。交流してみると「おいしいご飯が食べられること」が平和だったり「友だちと一緒にいられること」が平和だったりとさまざまでした。そして自分にとって平和とは何かを考える機会にもなりました。

三つ目は被爆者の話を聞くことの大切さです。

体験したことない人は体験した人の話を聞くことでどのようなことがおきるのかがだいたいわかります。それは、私たち若者と被爆者の方もあてはまることでしょう。すべてを理解し、伝えることは難しいですが、私たちは伝えなくてはなりません。76年経った今も苦しんでいる方々がいるということを痛感しました。

最後に今回学んだことを後世に伝えていきたいと思いました。



自分は今回の交流で、自分が全く知らない人の意見や考えを聞いて、とても関心を持つことができた。

意見交換の際、具体的に平和とは何か、ということのを皆で考え、自身の意見を発表した。別の人の意見で、「誰かの幸せが決して脅かされることがないこと」ということを聞いて、そのとおりだと思った。

しかし、今きっとそれは叶っていない。未だ、核爆弾の脅威はあるし、内戦や紛争が続いている。原爆や戦争、政権争いでずっと憎み合うばかり。今の私たちに何ができるのか。また昔のことを掘り返す。見て見ぬふりをしようと言うんじゃなくて、そこでまた憎み合ったら永遠に終わらないじゃないか。「武力で抑えつけて何になるのか」——こうしたメッセージを、私たちは発信しつづけなければならないのだ。



被爆者の話を聞いて、私が思ったことは、1つの爆だん、原爆で大ぜいの人が亡くなったり、町がはかいされたりしてしまう。

一瞬でなにもかもなくなってしまうということが分かった。

また、映像で見た長崎の鳥居などのように爆風だけで固い石が崩れたり、吹き飛んだりしてしまうほど恐ろしさが原爆にあることも、あらためて知った。

2日目にあった平和についての意見交換では、自分の意見とはちがう、全国の意見も聞いて、平和のことだけでもこんなにあるんだなと分かりました。また、その意見を実現するにはどのようなことが必要か、ということが分かり、自分でもそれを実現できるように、やれることがあれば、全力でやろうと思った。

今度は、実際に長崎に行って、見て、戦争の恐ろしさを体験したい。



1945年8月6日には広島、3日後の9日には長崎において、世界で初めて原爆が使用され、現在にも続く大きな被害が残りました。その現在、いまだに世界各地で戦争や紛争が続いており、多くの核兵器も保存されています。

市の派遣団の集まりや青少年ピースフォーラムでは、被ばく者の方々から当時のお話を聞いたり、原爆による被害の跡をリモートで見たりすることができました。実体験や実物は1つ1つが本物で、教科書で学ぶのとは違った迫力を感じました。平和に慣れていて戦争をまったく知らず、銃をカッコいいなどと言っている私たち若者に対して、平和がいかに素晴らしいのかを伝えてくれました。

私は中学3年で高校受験を控えており、いまは勉強に追われています。勉強は大変ですが、派遣団での経験を通して、高校では国際系のコースに進み、現代の世界についてさらに知りたいと考えるようになりました。また、たとえ対立しても武器ではなく話し合いで解決すべきだと改めて思いました。話し合うためには言語を身につけることが大切です。私は高校でさらに英語に磨きをかけることに加えて、第二外国語も学ぼうと思っています。そして高校に進学しても、平和についてのイベントや学習に積極的に取り組んでいきたいです。





「平和というものは何かの犠牲の上にある。大切なのは人の痛みを知ること。」

私はこの言葉が深く心に残っている。この言葉は8月9日、青少年ピースフォーラムで奥村さんがおっしゃった言葉だ。76年前のその日、長崎に落とされた原子爆弾は人々の命を奪うとともに生き残った人々の脳にその恐ろしさを刻みつけた。

新型コロナウイルスの影響で長崎に実際に訪れることは叶わなかったが、タブレットの画面を通して見た 11 時2分をさしたまま止まってしまった時計、ボロボロになった服は戦争を体験したことのない私たちにとって衝撃的なものだった。今平和だと感じている日本は、この時亡くなった多くの人の犠牲の上であり、この悲劇を伝え、繰り返さないことが平和を継続させるために必要不可欠なことだと感じた。

今まで平和学習は「やらされる」ものだった。しかし、今回、自らが自主的に学ぶことで、同じように考える人と意見を交換し、より深く考える機会となった。今年被爆者は 13 万人を下回り、平均年齢は 83.94 歳となった。原子爆弾の恐ろしさを直接体験した人は年々減少している。この中で私たち若い世代は何ができるのか、考えていかなければならないと改めて実感する青少年平和交流派遣団であった。



「日本は唯一の被爆国。だから核の恐ろしさを世界に伝える義務がある。戦争は二度としてはいけない。」

私は小中学校で第2次世界大戦について習う度に必ずこう教えられてきた。しかし被爆者でもなく戦争すら体験していない私に伝承の責任や核の怖さは、ずっと分からないままだった。平和な場所で生きている私にとって、戦争はどうしても無縁に感じてしまっていた。

中学3年の夏、井伏鱒二の「黒い雨」に出会い核の恐怖と伝承の必要性に気が付き、第2次世界大戦を学ぼうと強く思った。私は今回はじめて戦争を体験された方から話を聞いた。驚きの連続だった。私の習ってきた社会の授業からは想像もできなかった。「燃え盛る町を友人とずっと眺めてた、それは火の海で地獄だった。」「空の彼方から轟音と共に B29 がやって来た。」「家に 11 個も爆弾が落ち、跡地には 28 人分の兵隊さんの骨がとび散っていた。」「8才のとき家族を原爆で一瞬にして失った。」「…様々な戦争のお話を聞き、私は今までの自分をとても恥じた。同時に、このような体験を話して下さった方々の思いを絶対に閉ざしてはならないと思った。ただ、私が「はっ」とさせられたのは、そのような方達にも、当たり前のように家族が居て、友達が居て、幸せがあったことだ。8才で被爆された方は、原爆の被害に遭うまでは、食料もきちんとあり、友人とままごとやかくれんぼなどをして遊んでいたそうだった。私の思い描いていた戦時中はもっと暗く寂しいものだった。だからこそ、そんな当たり前にある幸せをたった一発の爆弾が奪ったのだと思うと、やるせなさで心がいっぱいになった。

また、今回私達はコロナ禍だったので、長崎へ行くことができなかった。だからこそ武蔵野市での戦争の歴史が心に強く残った。私の今居る町でも多くの方が苦しんだり、おびえたりしていたことを知り、戦争は決して自分から遠い存在ではないと知った。

私は、8才で被爆された方の言葉が忘れられない。それは「平和は歩いてきたわけではない。多くの人を犠牲にして作られたんだ。」という言葉だ。私は平和な場所で、その環境を作ってくれた多くの人々の努力を知らず、感謝もせずに生きてきた。私ができる彼らへの恩返しは、この平和を恒久的なものにすることだ。私の夢は弁護士になることだ。その夢が叶っても叶わなくとも、他の人の幸せを守り、平和な場所を提供し、世界平和の実現の一端を担いたいと思う。

私は今回2日間行われた青少年ピースフォーラムに参加しました。本来でしたら、長崎に行くことが出来るはずでしたが、コロナの緊急事態宣言下という事もあり、オンラインでの開催となりました。

1日目は、実際に被爆された方のお話を聞いたり、長崎の戦争跡地などを ZOOM を使用して実際に巡るなどの内容でした。東京に住んでいる為、広島や長崎に行かないと体験された方の話は聞くことができません。しかし、今回聞くことができました。原爆の恐ろしさというものが、体験された方の話から改めて理解しました。私達や戦争を知らない世代の人が言う核をなくさなければならないと本当にその場で見て、聞いて、感じた方の言葉の重みは比べものにならない程遠く、また更に改めて戦争や核の悲惨さを理解するべきだと考えました。

2日目は、平和とは何か？というテーマから様々な地域や県の方々と話し合う意見交換会などを行いました。自分が考えていた平和というものと、他県の方が考えていた平和の意味や捉え方の違い、人は本当にささいな事でも平和を感じる事ができるのだと思いました。

今回2日間のピースフォーラムを通じ、戦争の悲惨さや平和について今一度考え直してみようと思えました。そして、戦争というものはもう二度と起きてはいけません。



今回、青少年平和交流派遣団に大学生サポーターとして参加しました。平成 27 年度以来二度目でしたが、前回よりも参加人数が多く、私は嬉しく思いました。事前学習では、武蔵野市の空襲を受けた場所へ行き、戦争体験者のお話を聞くことができました。武蔵野市で起こった出来事やお話を聞くことができ、戦争の悲惨さや辛さを改めて感じさせられました。第3回事前学習会では、各自で調べてもらった長崎にまつわる様々なことを発表してもらいました。長崎について自分で調べてもらうことで「原爆を落とされた町」という印象だけでなく、現在の姿も知ってもらえたのではないかと思います。

今回の青少年ピースフォーラムはコロナ禍のため、オンラインで行われました。全国の学生たちと平和とは何か、どんな状況を指すのか話し合いました。自分の考えていた「平和」と他の人が考える「平和」の違いはありましたが、どれも間違っていないと感じました。私のチームで、「目に見えている世界が平和でも、すべてが平和と言えるのか」という問いが最後に出ました。平和とは難しいものだと改めて感じたピースフォーラムでした。





## 事後の活動について

活動報告書の作成および11月23日に開催される「平和の日イベント」での報告会の準備のため、8月26日と11月19日に団員と大学生サポーターが顔を合わせました。

8月の集まりでは報告会の発表をする担当と、報告書の執筆の分担を決めました。また、平和交流のアンケートを各自で書きました。

11月の最終打ち合わせでは、各自考えた報告内容の読み合わせを行いました。事前学習から学んできたことを含め、平和の大切さや尊さを改めて確認しました。

今回参加した「青少年ピースフォーラム」の終了証が団員に渡されました。



※撮影時のみマスクを外しています

## 編集後記 平和交流派遣事業を終えて

大学生サポーター 牛木 萌絵  
佐藤 礼菜

初めに、事前学習に携わっていただいた方々、並びに平和交流を実施するにあたりお世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。

今回はコロナ禍での平和交流となりましたが、多くの団員が集まってくれたことに喜びを感じました。実際に長崎に行くことは叶いませんでしたが、ピースフォーラムでZOOMを用いて城山小学校や被爆クスノキなど当時の原爆の爪痕を見ることが出来ました。改めて平和の尊さを周りに広げること、さらに未来へ繋げていくことの必要性を感じました。

皆さんは今回被爆体験を話して下さった奥村さんの話がとても印象深く残っていると思います。爆心地からわずか500メートルの城山小学校で被爆し、当時8歳という幼さで家族や友人をほぼ同時に失ってしまった悲しさや苦しさが画面越しでも強く伝わってきました。そんな戦時中でも人との繋がりに救われたと奥村さんは言いました。これは現在の状況に通じるものがあると思います。コロナ禍で人と関わる事が少なくなり、外出の制限も加わり不自由さを感じることもあると思います。そのような状況だからこそ人と関わり合い、思いやりの心を持って接して欲しいと思います。それがお互いの心の豊かさを生み、争いが無くなる未来に繋がると思うからです。

6月から始まった青少年平和交流派遣団で団員たちが学び、調べ、体験したことが伝われば幸いです。



**武蔵野市青少年平和交流派遣団  
活動報告書**

**編集担当  
牛木萌絵、佐藤礼菜**

**発行 令和3年 11 月**

